

二〇一八年 夏のある日

加藤文子

朝食のあと、六時三十分からしたこと。

庭に出る。夏はそこいらじゅう蜘蛛の巣が張るので、シユロほうきでからめ取りながらひとめぐりする。

特にポストの周辺、西洋ガシワや百日紅の植わる庭の先端はすごい。うっかり忘れて無防備に通過して、顔にまわりついた時の感触は何とも言えない。

ついでに温室の窓も開け放つ。朝のうちは山から吹き下りてくる風もおだやかなので、大胆に開ける。

盆栽の水の渴きを確認。夜中に風が吹いたので、すでに乾いているものもある。

庭の片すみで、母から譲り受けた中国草ボタンのうす紫の花が、房状にこぼれ落ちそうに咲いている。母の好きなむらさき。これを生けて母の写真の横に飾る。



日が高くなる前に、温室脇のトサミズキの枝の徒長も整えておこう。日中は温室の窓に光が反射して特別暑くなるので、朝のうちに済ませる。気になりながらも後回しになって、なかなかできなかったことのひとつ。ようやく実行できて、景色もすっきりして気持ちがいい。

そろそろ八時になる。八時まであと十分あると思ってみたり、もう八時になってしまうと、急いた気分になったり、時間の感覚は日によって、時によって異なる。

台所に戻って、麦茶を煮出す。やかんが沸騰するまでのあいだ、ニンニクをおろし金ですってオブラートに包んで冷ました白湯でのむ。健康維持のための毎朝の習慣。

みそしるとキンピラを調理。ぬか床から大根とニンジンを取り出して、お向かいさんから頂いたキュウリとナスを漬ける。お向かいさんは知らないうちにそっとコンクリートの外壁に朝採りの野菜を置いてくださる。外壁に野菜を並べている時に気がついて、あわてて外へ飛び出すのだが、急いで帰ってしまう。なかなかお礼が言えない。

台所仕事をしながら、ニーナ・シモンの Here Comes The Sun をかける。ここのところ毎日聞いている。

最後に従兄弟の初ちゃんを訪ねた時、おもやげに持っていたCDだ。ニーナ・シモンもクリス・コナー同様、共通の思い出。

いいネエ、いいネエって喜んでくれた。

輝きに満ちた世界を信じなくなるようになった、三曲目の Oh Child がはじまると涙が止まらなくなる。

昏睡状態に陥ったと連絡をもらったのだけれど、もう一度あいたかったけど、メニエール病発症でめまいが止まらず、駆けつけることのできない間に逝ってしまった。先月のこと。

今頃どこで何思っているのだろう。私のことも見えているのかな。初ちゃん、私、ニーナで貴方を送ります。お幸せを願って……。

昼食の下ごしらえも完了。サア、庭に出よう。草とり、盆栽の水やり、虫退治、棚のそうじも……。



玄関の出窓に豆鉢のイタドリを飾る Photo / Kato fumiko